

高森山公園の未来プランが始動

11月28日に「どんぐりs」主催の「紅葉を見よう会」、

高森山公園の未来プランが動き出した。「高蔵寺まちづくり会社」（まち社）が10月11日から1月にかけて、里山づくりをテーマに座学と現地実習3回の「高森山フォレストサポーター講座」を開催する。一般公募で15人が対象。「どんぐりs」も支援協力を決め、会員が講座に参加する。「まち社」の目的は、高森山を適切に管理するための植生のありかた、環境保全のノウハウを実践的に習得することとしている。

「まち社」が、春に公表した未来プランの内容は、独自に高森山の整備（写真）を進めてい



る、「どんぐりs」の部会「魅力ある高森山公園をつくる会」（つくる会）の構想とほぼ一致する。コンセプトは、子供には野性味あふれる野外学習、大人には健康増進と癒やしの場となる里山公園づくりである。遊歩道を整備し、見晴らし台の設置、周辺には駐車場の増設、芝生広場やバーベキュー場所、管理棟の新設などを考えている。

ただ、未来プランの具体化には、多大な工事費がかかるため、地域住民の皆さんの理解と行政への強い要望が欠かせない。「つくる会」は高森山の魅力を多くの方に知ってもらうために、各種のイベントを企画している。今春の「ツツジを見よう会」に引き続き、11月28日（土、10時～12時30分）に、秋を彩る「紅葉を見よう会」を開催する。親子、家族連れで楽しめる盛りだくさんの企画も詰まっていますので、会員の皆様も気楽に参加し、鮮やかな紅葉を楽しんで下さい。（堀内 泰）

役員会から

●理事3人で春日井市の健康増進課を訪れ、春日井市のコロナ対策の実状を聞きました。
①どうすればPCR検査が受けられるのか②感染者の地域分布、年齢構成、重症者の数はどうなっているのか③患者が激増した場合の隔離施設、医療態勢は大丈夫か、などの基本的な疑問点を尋ねました。●これに対し、「制度上、コロナの医療・治療対策は県の担当で、市は予防、啓発しかできない。PCR検査や隔離施設など市独自の施策はとて無理」と、歯がゆい市の立場を強調、期待した回答は得られませんでした。「県からの感染者情報も報道の内容と同じものしか来ない。市内の重症者の数もどこに入院しているかもわからない」。地方の時代ははるかに遠い。●サンマルシェにある「東部ほっとステーション」の入室者制限が、9月25日に23人から45人に緩和されました。「どんぐりsカフェ」が十分に開催できます。コロナ禍の中で久しぶりの朗報といえるでしょう。（明賀 雄二）

ホームページを刷新しました

名称変更に伴い「どんぐりs」のホームページを刷新しました。「魅力ある高森山公園をつくる会」のサイトを新設し、ご意見を聞く投稿欄を設けました。一度のぞいてください。

●<http://www.kozoji-donguris.or.jp/>

玉野の「活き活き楽農会」農園

イノシシ害深刻

春日井市玉野地区の玉野川沿いに広がる「活き活き楽農会」の農園が、9月に入り、数度にわたりイノシシの侵入を受け深刻な事態となっている。中でも10人の会員が耕すサツマイモ畑は軒並み掘り返された。イモは跡形もなく食べられ、葉とツルだけ散らばっていた＝写真。

楽農会は、対策として畑の周囲に鉄筋杭を打込み、ネット網の柵を張り巡らした。が、イノシシは下から潜り込む力が非常に強く被害は治まらない。さらに困るのは、ミミズが好物でサツマイモだけでなく、大根などの畑も、畝をほじくり返してしまう。会員の一人は「このままでは耕作する意欲もなくなる」と肩を落とす。知恵比べしかなく、臭いのついた古着、犬の首輪や骨ガム、太陽光蓄電式ガーデンライトを置いた所、侵入が止まったので様子を見ている。

私の朝・昼・晩

コロナ禍の個人的経験

現在、100年に一度と言われる世界的な感染災害「新型コロナ」が大きな暗雲を世界全体にかけ、いつ晴れるか見通しが付かない現状です。その影響は世界中の経済マヒ等甚大ですが、身内での影響について、個人的な経験を参考までに今回述べさせていただきます。

オランダ人と結婚し、今年第1子を儲けた二女が夏休み（1か月間）帰省する為、7月に帰国した際の話ですが、成田空港での全員PCR検査は当然ですが、成田から公共交通機関は使用不可と言われ、急遽、春日井から成田まで片道6時間、日帰り12時間の自家用車での送迎を行いました。PCR検査は陰性でしたが、14日間の基本自宅待機を要請され、保健所から、毎日の様に、3人の体温及び体調を電話ヒヤリングされたのは、国挙げての取組となっていることを感じました。

コロナ禍での暗いニュースが多い中、リモートワーク等新しい社会への芽吹きも感じられ、我々は時代の大きな変革期の真只中にいる生き証人かも知れません。（奥村 昇次）



市の農政課の話では、昨年の豚コレラ流行で抗体ができ、今年の出没数は異常に多い。すでに市内で60頭ほどが捕獲されている、という。しかし、市内で猟友会員が6人しかおらず、玉野地区に罠の檻を増やすのは難しいようだ。

ふるさと農園新部会長 井上 誉さん

ふるさと農園の部会長を務めております、井上誉（ほまれ）と申します。玉野町利用改善組合は玉野町内の農地を維持・管理する為に発足しており、水稻事業と農園（ふるさと農園）事業で運営しております。水稻事業は、トラクターやコンバインと言った高額な機械が必要です。水稻事業を運営していく上で、ふるさと農園の利用料でまかなわれています。楽農会のみなさんが、楽しく農地を利用して頂くことで、玉野町内の農地が守られています。これからも、末長く楽しんで利用して頂けると嬉しいです。前日も蜂の巣があると連絡を受け、撤去しました。些細な事でも構いませんので、思いついたことなどございましたら、ご連絡をお願いします。わらや、もみ殻など何なりと言って下さいね。

☎090-5100-0293

Eメール：inoue2525i@i.softbank.jp

すまい困りごと無料相談

- 電話または直接面接会場にお越しください
☎080-5297-8956（長谷川）
面接相談会日時；10月11日（日）11月21日（土）
（ともに13：30～15：30）
会場；東部ほっとステーション
（サンマルシェ南館1階）

ハート・ほっと・ルーム

- 日時；10月25日（日）、11月22日（日）
（ともに13：30～15：30）
会場；東部ほっとステーション 参加費；無料
連絡先；☎090-6330-4393（浪川）